

歯科矯正における新しい治療方法として、アライナーによる本格矯正治療（フルマウス）が挙げられる。これは近年の急速なデジタル化の発展に伴う進化であると同時に、今後もこの波は更なるスピードで発展していくと推測する。しかし、歯科矯正界の先人達が多く時間と労力をかけ確立した矯正診断・治療目標の設定・治療計画の立案は人間の頭脳によるものが大半であり、現時点では人工知能（AI）による自動設計計画はない。

矯正治療の目標とは、形態・機能・審美における改善と治療後の安定であることは言うまでもない。それぞれの患者の不正咬合に対して、最適な治療メカニクスを選択するというカスタマイズされた治療であり、患者の口腔内を診査しただけで安易に歯並びをキレイにするという治療ではない。加えて、抜歯または非抜歯の選択基準も検査・診断により形態・機能・審美における問題の改善を考慮した決断であると考えられる。

不正咬合の原因には遺伝的問題以外にも、機能的問題として姿勢、呼吸、舌位、嚥下、口腔周囲筋の緊張などが複雑に影響しており、これらの問題を無視した治療は治療後の安定性に問題を残すこととなる。

本講演では、矯正治療においても診断・治療目標・治療計画がいかに重要であるか、を述べさせていただきつつも、アライナー矯正とワイヤー・ブラケットによる症例を紹介しつつ講演させて頂く。